

平成28年3月29日

公益財団法人富山第一銀行奨学財団  
理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 : 600 千円	
研究代表者 : 柏木 健司	所属 : 理工学研究部 (理学) 地球科学科	職位 : 准教授
研究題目 : 富山県東部黒部峡谷のニホンザルが獲得した洞窟利用 : 北限の霊長類の厳冬期防寒戦略		

【研究概要】

黒部峡谷鐘釣地域のニホンザルは、本邦で唯一、厳冬期に洞窟に入り寒さに耐え暖をとることが、確実な情報に基づいて知られている。洞窟利用という生態は、霊長類全体の視点で観ると、必ずしも特異なものではない。一方、ニホンザルの事例は「人類を除く霊長類で最北限に生息するニホンザルの厳冬期防寒戦略は、熱帯-亜熱帯地域を起源とする霊長類が、いかにその生息範囲を北方へと広げていったか」という視点で、霊長類の進化史も含めて、極めて重要な情報を霊長類学に提供し、早急に解明すべき研究課題である。黒部峡谷のニホンザルは、期せずして霊長類学の最前線に立ち、まさに体をはって厳冬期を生き抜き、我々に貴重な情報を提供し続けている。

【成果要約】

黒部峡谷の洞窟において、ニホンザルの洞窟利用は冬期に限定される。本助成金による期間を含め最近の3年間は、自動センサーカメラによる観測により、ニホンザルが洞内で主に家族単位でサル団子を形成して暖をとる生態が明らかになってきている。

現在、黒部峡谷の洞窟とその周辺において、自動センサーカメラと自動温湿度計を設置し、厳冬期における連続的自動観測を実施中である。この観測により、洞窟利用を促す気象条件や、洞窟を利用する期間等の詳細について、情報の一端が得られるものと期待される。なお、機器は2015年11月24日に設置し、回収は黒部峡谷鉄道が開通する4月中旬以降となる。2015年度の冬期は、相対的に降雪が少なかったと予想され、一方で単発的に寒気が入ってきていることから、寒気が入り体感気温が急激に下がった時期に、ニホンザルが洞窟を利用したのではと予想している。4月中旬以降に、データを解析することで、気象条件と洞窟利用の相関が明らかになるものと期待している。

なお、新たな洞窟を探索したものの、新洞の発見には至っていない。また、非積雪期(4-11月末)の自動センサーカメラの観測では、ニホンザルの洞窟利用は確認されなかった。このことは、洞窟利用が厳冬期の防寒目的であるとの考えを支持する。

(別添資料)

研究成果 発表状況	【雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成した Web ページ, 産業財産権 (特許権等) の出願・取得状況について記入】 5月24日 立山自然保護ネットワーク総会にて, ニホンザルの洞窟利用の話題提供 5月27日 北日本新聞にニホンザルの洞窟利用の記事の掲載 6月25日 北日本放送 ラジオ とれたてワイド朝生内 朝生コラム ニホンザルの洞窟利用の研究紹介 12月8日 立山研究会にて, 鐘釣 多年性雪渓の口頭発表 12月1日~2016年2月28日 富山市ファミリーパーク内 里山生態園 パネル展「干支のサル」にて, ニホンザルの洞窟利用の研究紹介		
経費の 執行状況	区分	執行額 (円)	備考
	物品費	451,420 円	自動センサーカメラ, 自動 温湿度計, 消耗品等
	旅費	75,580 円	黒部峡谷への調査・打ち合 わせ旅費
	謝金	73,000 円	急崖登坂補助一式